

Principal Correspondence

天才の秘密



世の中の、天才とよばれる人を分析した書を読んだことがあります。天才に共通しているのは「集中力」。ひとつの事に没頭して、3年くらいは寝食を忘れる時期があるようです。例えばピカソは意図的に「青の時代」とよばれる時代を創っています。「青ばかり使う」と決めたら3年くらいは青ばかり徹底的に追求したのです。ひとつの事に集中している状況を長く続けられるというのはあきらかに技能であります。「才能とは集中力である。」という学者もいるほどで、これは幼少期に育まれるという学説もあります。

もうひとつ天才に共通するのは、発明家のエジソンでも画家のピカソにしても、詩人ゲーテにしても驚くほど多作であるということです(若くて夭折した天才は勿論いますが、生きていたらきっと多作だったことと思われれます)。少作で完全に質の高いものは生まれにくい。天才たちは同じようなもの(駄作も含めて)をたくさん作りながら改良していくうちに傑作が生まれているようです。「天才とは量である。」という学説もあります。



最後に「ひらめきは、怠け者には訪れない客である。」という言葉があるように、日ごろから問題意識を持って、考えぬき、努力していないと、豊かな発想が浮かばないことも共通点としてあげられるでしょう。

一般に才能を伸ばすのに500時間、1500時間、5000~10000時間という3つの壁があるといわれます。例えばピアノや、英語を習うとします。大体500時間の練習を越えると初心者を超え、1500時間費やすとピアノならお客様の前でちょっと弾ける中級者、英語なら1人で海外を旅できるレベルでしょうか。さらに最低5000~10000時間以上費やすとピアノなら音楽の先生や、音楽教室の先生、英語なら通訳や翻訳者といったレベルのプロになれると言います(一流、二流は別にして)。

どんな天才も時間はかけています。一芸に秀でるのに王道はありません。別に天才を目指さなくとも、少なくともこの時間量をかけることが、子どもたちの自己実現を助ける糸口にはなりましょう。

当たり前のことを「あせらず、たゆまず、こつこつと」こなしていくこと。

小さな進歩に喜びを見出し続けること。

継続は力なり。

集中力を身につけ、その上で「ひらめき」が訪れればひよっとすると誰もが天才になれそうです。

ただし天才が幸せな人生をおくったか、おくれるかは別の話ですが…。



Principal Correspondence



効果的な勉強法

勉強を効率的にするためにいくつかのコツを心理学から！

📖 学習はコツコツ

学習を2日に分けて2回やるやり方と、一日で一気にやるやり方では、学習直後には差はないが、翌日の再テストでは一気にやった方の点数が、3分の1に落ちてしまった。学習はコツコツが良い。

📖 眠る前に記憶

算数の論理的な学習などは先にやり、年代や単語の記憶などは寝る前にやるのが最も効果的。睡眠は記憶の定着を助けてくれる。記憶した後に、もしテレビを見たりゲームをやったりした時は、5分間でもさっとおさらいすると良い。

📖 脳は出力することで記憶

参考書を繰り返し読むより、問題を解く方が効果的。脳は出力することで記憶する傾向がある。

📖 まずは形

姿勢を良くする。学習の環境を整えて周りを整頓してから臨む。形を整えることは人が考える以上に効果がある。

📖 やる気が出たからやるのではなく「やり始める」とやる気が出る

「何事も取り掛かったらもう半分終わったようなもの」とはよく言ったもので、脳は出力を重要視するようにできているので取り掛かれれば意欲も出てくる。

📖 三日坊主になるのは

ゴールが明確に設定されていない。イメージをもっていない(漠然とダイエットやっているように)。「今やるべきこと」が明確化されていない。
小さな喜びや報酬が用意されていない(例えば勉強片付けたらゲーム30分とか)。

📖 同じような学力を持った子どもたちで集団を形成する

習熟度別学級は効果的。特に学習進度の遅い子に効果が著しい。ただし低学年で習熟度学習を取り入れると格差が拡大し、平均的学力も低下する傾向がある。

📖 けじめをつける

のびのびと、と言って甘やかすだけの親はだめ。やるときはやる、のびのびする時はするというけじめが大事。子供の笑顔が見たい為に「友達親子でいよう」などというのは青少年のうちは最もやってはいけないこと。親は権威を持ちましょう。

